

1. 調査報告概要表

作成日 平成 19年 6月22日

【評価実施概要】

事業所番号	3170200772
法人名	社会福祉法人 地域でくらす会
事業所名	グループホーム 井上さん家
所在地 (電話番号)	鳥取県米子市富益町4564-5 (電話) 0859-25-0743

評価機関名	有限会社 保健情報サービス
所在地	鳥取県米子市西福原2-1-1 YNT第10ビル207
訪問調査日	

【情報提供票より】(19年5月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 4 月 1 日
ユニット数	1 ユニット
職員数	8 人
利用定員数計	9 人
常勤	7 人
非常勤	1 人
常勤換算	4.2

(2) 建物概要

建物形態	<input checked="" type="checkbox"/> 併設 <input type="checkbox"/> 単独	新築/改築
建物構造	鉄骨 造り	
	1階建て	1階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	43,500 円	
敷金	有() 円	○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	240 円	昼食	400 円
	夕食	360 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(5月30日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名	
要介護1		名	要介護2	1 名		
要介護3	4 名		要介護4	3 名		
要介護5	1 名		要支援2	名		
年齢	平均	82 歳	最低	72 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	九里クリニック、新納歯科
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

デイサービスとグループホームが併設というよりもグループホームでデイサービスを行っていると言って良い。「井上さん家」では、制度改正前から小規模多機能型居宅介護を早くから実践している様なものである。利用者の立場に立った質の高いケアがなされている。管理者も夜勤にシフトされていて、職員全体がチームとしての質の高いケアを実践されている。デイの利用者もグループホームの利用者も、明るい表情で安心してケアを受けておられる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>介護計画への入居者・ご家族の意見の反映については、ご家族の意見を書く欄を設ける等の工夫がみられた。分かり易い書式の改善については検討中である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は全職員で行い、外部評価の結果についてはミーティングで報告し、改善に向けての努力がされている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、18年9月以降3ヶ月に1回開催されている。2ヶ月に1回開催の予定であるが、諸事情により今のところ3ヶ月に1回程度になっている。まだあまり推進会議の活用とまではいたっていない。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族アンケートによると、ほぼ90%の家族が満足し職員に感謝しておられる。家族の意見を聞くよう努力されていて、運営にも反映するよう話し合いがもたれている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>時折、近所の方が訪れ、一緒に歌を歌ったりされる。散歩をする時には声をかけてきてくれて馴染みの関係が出来ているが、まだ自治会の行事等への積極的な参加には結びついていない。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人独自の理念に基づき、ホーム独自の理念を分かり易い表現で作成されている。	<input checked="" type="checkbox"/>	
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の基に管理者、職員が同じ気持ちで日々の介護に取り組んでおられ、朝礼やミーティング等でも話し合われている。また、複数箇所に理念の掲示も見られる。	<input checked="" type="checkbox"/>	
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には加入されているが、積極的な活動には結びついていない。近隣の方たちとの挨拶や声かけ等も行われている。	<input type="checkbox"/>	交流していこうという意志は感じられる。地域活動への参加、事業所行事への地域の方の参加呼びかけ等、これからの活動に期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全員で自己評価を行い、外部評価の意義や結果を職員全員で話し合い、改善に向けて努力されている。	<input checked="" type="checkbox"/>	
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は開催されているが、まだ充分機能しているとはいえない。多忙な中で2ヶ月に1回というのは中々大変との声が多く、現時点では3ヶ月に1回のペースで行われている。会議では日々の暮らしの状況、活動を基に話し合い、サービス向上に努めておられる。	<input type="checkbox"/>	ホームの都合などにより3ヶ月1回になってしまっている。施設長の方からは運営推進会議の取り組みへの熱意は感じられたので、これからの取り組みに期待したい。自治会・公民館・利用者・地域住民と幅広く参加を呼びかけて、一人でも多く理解者を増やすよう努力して欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	課題解決に向けて協働するためにも、市の担当者との交流も不可欠である。ホーム側からは、市に対して働きかけをしているが、市の担当者があまり積極的でない現状もあり、今後の課題と思われる。	○	市職員との交流を図り、市職員の研修場所として、まずはグループホームというシステムをもっと見てもらい、理解を深めていただけるよう今後も働きかけを続けて欲しい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回「井上さん家だより」が発行され、ご家族に送られており、その他の事についても個々にあわせた報告が成されている。また、新人の職員がいる場合は「井上さん家だより」だけでなくご家族が訪問された際、施設長からの紹介もされている。金銭管理についても出納帳を送付・報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方とは面会時などに日常的な様子などを伝えながら、意見や要望を引き出して運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動・新規採用の職員については、充分研修期間を設け、利用者へのダメージが極力最小限になるよう配慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に法人内での研修が行われており、職員の段階に応じて、外部の研修にも参加出来るよう配慮されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会での総合研修等を活用し、他のグループホームとの交流するなど、質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	デイサービスを併用しているため、そこから馴染んで入居される方もおられる。デイを利用していない場合でも、事前に訪問面談の機会を作ったり、見学に来て頂く等、入居する際の工夫・配慮がされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の方の不安や喜びを共有している。また、利用者の方から元気をもらう場面も多いと話している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望、意志など把握できるよう日々努めている。関わりの中で表現し易いように状況を作り、言葉かけや場面作りするように努められている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日常生活の中での課題や支援のあり方について職員全体で意見を出し合い、計画を作成するよう努力されている。家族からの意見も聞き、計画に反映出来るよう努力されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しは定期的に行われており、家族の意見も計画・見直しに反映するよう努力されている。変化や変更等が生じた時点で、見直しや計画の立て直しを、現状に即して随時作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の希望を反映し定期的に外出、外泊できるよう支援されている。、デイサービスの方とも自由に交流できるよう配慮されている。また、デイの利用者がおられる時とおられない時で曜日の感覚をもってもらう等、多機能を活かした支援が行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望が優先されている。受診支援は非常に親切に、しかも柔軟に対応されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	協力医との連携体制が確立されており、ご家族等と相談しながら終末期へのあり方を決め、過去2名の利用者の方の看取りを経験されている。チームとして終末期に向けた方針が確立している、真に取り組んでおられる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	目立たずさり気ない言葉かけや対応に配慮されている。個人情報の取扱いについては、全職員が誓約書にサインし保護の徹底に努められている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食べ物の好みを聞いたり、入浴も時間や日数を定めるのではなく、一人ひとりのペースに合わせた暮らしの支援がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に合わせ量を調節したり、刻み食、とろみ食と対応している。彩の良い食事が提供されていて、一緒に頂いた昼食はとても味付けが良く美味しいものだった。デイサービスの人と一緒になので準備や片付けは職員の方がしておられる。		朝食、夕食の場面を拝見する事が出来なかったが、豆のすじ取りや配膳等、各自出来る事を出来る範囲でされている。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は各々の好きな日や時間・頻度に合わせて行われ、毎日入られる利用者もおられる等、本人の希望に合わせて支援がなされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	歌を歌ったり、和裁の得意な利用者の方から雑巾作りやボタン付けを習ったりしておられる。畑仕事や花作りをする方もおられる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物など支援されている。その日の状態、状況に合わせて支援されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室、玄関とも鍵はかけられておらず、職員が見守りをして支援しておられる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を行っており、災害に備え缶詰や水などの備蓄もされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量を把握している。チェック表に記入し職員が共有している。		バランスの良い食事提供をされているが、時には栄養士にチェックしてもらわれるのも良いのではないだろうか。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム全体が家庭的で清潔であった。中庭の草花も自然で違和感がない。訪問日にはあじさいの花が各所に飾られていて、季節感も充分取り入れてあった。部屋やトイレ等には分かり易い目印がしてあり、住み易い工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族や本人と相談し入居前から使っていた物を持ち込む等、使い慣れたものを居室に取り入れ、過ごしやすくなるよう支援されている。		











